



平成 22年 3月期 第3四半期決算短信

平成 22年 2月 4日

上場会社名 **小野薬品工業株式会社**
コード番号 **4528**

上場取引所 大阪・東京 各第一部
(URL:<http://www.ono.co.jp/>)

代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)相良 暁
問合せ先責任者 (役職名)常務取締役広報室長 (氏名)森本 公也
四半期報告書提出予定日 平成 22年 2月 12日

TEL (06)6263-5670

(百万円未満切捨て)

1. 平成 22年 3月期第3四半期の連結業績(平成 21年 4月 1日～平成 21年 12月 31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年 3月期第3四半期	106,325	2.0	34,541	△1.7	37,185	△2.0	24,592	17.9
21年 3月期第3四半期	104,254	—	35,150	—	37,938	—	20,853	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年 3月期第3四半期	226.17	—
21年 3月期第3四半期	188.94	—

※前期は、「四半期財務諸表に関する会計基準」等に基づき財務諸表を作成した初年度であったため、前期の対前年同四半期増減率は記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年 3月期第3四半期	428,078	400,646	92.8	3,651.60
21年 3月期	421,280	390,041	91.8	3,555.54

(参考) 自己資本 22年 3月期第3四半期 397,058百万円 21年 3月期 386,621百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年 3月期	—	90.00	—	90.00	180.00
22年 3月期	—	90.00	—	—	—
22年 3月期(予想)	—	—	—	90.00	180.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 : 無

3. 平成 22年 3月期の連結業績予想(平成 21年 4月 1日～平成 22年 3月 31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	139,300	2.0	40,700	△6.4	43,500	△7.0	28,700	20.8	263.94

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 : 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

[(注) 詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。]

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 無

② ①以外の変更 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

22年 3月期第3四半期	120,847,500株	21年 3月期	120,847,500株
--------------	--------------	---------	--------------

② 期末自己株式数

22年 3月期第3四半期	12,112,171株	21年 3月期	12,109,665株
--------------	-------------	---------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)

22年 3月期第3四半期	108,736,592株	21年 3月期第3四半期	110,371,288株
--------------	--------------	--------------	--------------

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載しております業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

なお、業績予想に関する事項は、5ページの【定性的情報・財務諸表等】3.連結業績予想に関する定性的情報をご参照ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

国内医薬品業界におきましては、後発品使用促進策の進展など医療費全体の抑制を目的とした諸施策が一層浸透するなか、国内外の企業間競争が一段と激化するなど、市場環境は厳しさを増しています。

このような状況のもと、当社は独創的な新薬開発を目指し、研究開発体制の一層の強化と主要製品を中心とした学術情報活動の充実に努めました結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下の様になりました。

売上高	1,063億2千5百万円	前年同期比2.0%増
営業利益	345億4千1百万円	前年同期比1.7%減
経常利益	371億8千5百万円	前年同期比2.0%減
四半期純利益	245億9千2百万円	前年同期比17.9%増

・売上高 前年同期比20億円（2.0%）増の1,063億円

主要製品の売上高ですが、末梢循環障害改善剤「オパールモン錠」は、腰部脊柱管狭窄症領域で新規処方の拡大が進み前年同期比25億円（8.6%）増の325億円となりました。また、平成19年6月に発売しました過活動膀胱治療剤「ステープラ錠」は、当該市場での育成が順調に進み、前年同期比16億円増の30億円となりました。さらに、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」は、引き続き積極的な情報活動に努めました結果、前年同期比3億円（1.9%）増の173億円となりました。なお、昨年4月に新発売しました骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」の売上は4億円となり、また昨年12月に新発売しました2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」の売上は11億円強、癌化学療法に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」の売上は1億円弱でした。

一方、糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」は、引き続き潜在市場の開拓活動を積極的に進めましたが、後発品の影響などにより、前年同期比7億円（6.2%）減の119億円となりました。気管支喘息（小児）治療剤「オノンドライシロップ」は、競合品との競争激化の影響などにより、前年同期比4億円（6.0%）減の64億円となりました。

・営業利益 前年同期比6億円（1.7%）減の345億円

売上高が前年同期比20億円（2.0%）増の1,063億円となり、売上原価が前年同期比4億円（2.7%）増の165億円、販売費及び一般管理費が前年同期比22億円（4.2%）増の552億円となりました結果、営業利益は前年同期比6億円（1.7%）減の345億円となりました。

なお、販売費及び一般管理費のうち、研究開発費につきましては、引き続き積極的な研究開発活動を進めました結果、前年同期比10億円（3.7%）増の285億円となりました。

また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は、新製品上市に伴う営業経費の増加もあり、前年同期比12億円（4.8%）増の266億円となりました。

・経常利益 前年同期比7億円（2.0%）減の371億円

営業利益が前年同期比6億円減の345億円となり、営業外収支が受取利息及び受取配当金の減少により、前年同期比1億円減の26億円の利益となりましたので、経常利益は前年同期比7億円（2.0%）減の371億円となりました。

・四半期純利益 前年同期比37億円（17.9%）増の245億円

前年同期の特別損益は、特別利益として投資有価証券売却益13億円を計上した一方で、特別損失として投資有価証券評価損39億円を計上したことにより、差し引き26億円の損失でしたが、当年同期には、特別利益として過年度研究開発費の戻入益3億円を計上した一方で、特別損失は投資有価証券評価損5千万円の計上に留まったことから、前年同期に対し特別損益が大幅に改善しました。

また、今期から試験研究費の税額控除の上限が拡大されたことなどもあり、税金費用が前年同期比15億円減少しました。

以上の結果、四半期純利益は前年同期比37億円（17.9%）増の245億円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

	当第3四半期末	前連結会計年度末	増減
総資産	4,280億7千8百万円	4,212億8千万円	67億9千7百万円
純資産	4,006億4千6百万円	3,900億4千1百万円	106億5百万円
自己資本比率	92.8%	91.8%	—
1株当たり純資産	3,651.60円	3,555.54円	96.06円

総資産は、前連結会計年度末に比べ67億円増加して、4,280億円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて61億円増加して、1,867億円となりました。これは、たな卸資産が39億円、売上債権が16億円、それぞれ増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて6億円増加して、2,413億円となりました。

負債は、前連結会計年度末に比べ38億円減少して、274億円となりました。

また、純資産は、前連結会計年度末に比べ106億円増加して、4,006億円となりました。剰余金の配当金の支払195億円がありましたが、一方で、第3四半期純利益の計上245億円、その他有価証券評価差額金の増加54億円があったことなどによります。

(連結キャッシュ・フローの状況)

	当第3四半期連結累計期間	前第3四半期連結累計期間	増減
現金及び現金同等物 期首残高	534億6千万円	474億3千3百万円	—
営業活動による キャッシュ・フロー	129億4千万円	157億4千1百万円	△28億1百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	240億2千3百万円	317億1千6百万円	△76億9千2百万円
財務活動による キャッシュ・フロー	△190億5百万円	△484億4百万円	293億9千9百万円
換算差額	1千6百万円	△7千7百万円	9千4百万円
増減	179億7千5百万円	△10億2千4百万円	—
現金及び現金同等物 四半期末残高	714億3千6百万円	464億8百万円	—

営業活動によるキャッシュ・フローは、129億円の収入（前年同期比28億円収入の減少）となりました。主な内訳としては、税金等調整前四半期純利益374億円などのキャッシュの増加要因があった一方で、法人税等の支払180億円、退職給付信託の設定による支払50億円、たな卸資産の増加39億円、売上債権の増加16億円などのキャッシュの減少要因がありました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、240億円の収入（前年同期比76億円収入の減少）となりました。主な内訳としては、有価証券及び投資有価証券の取得による支出があったものの、売却・償還等による収入があり、差し引き264億円の収入となったこと、有形固定資産の取得による支出19億円がありました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、190億円の支出（前年同期比293億円支出の減少）となりました。主な内訳としては、配当金の支払189億円がありました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第3四半期末残高は、前連結会計年度末残高に比べて179億円増加し、714億円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

通期について下記のとおり修正いたします。

(1)平成22年3月期 業績予想の修正 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) 平成21年11月5日発表 (前年同期比)	137,900 (1.0%)	40,500 (△6.8%)	42,900 (△8.2%)	28,300 (19.1%)	260.26
今回修正予想 (B) (前年同期比)	139,300 (2.0%)	40,700 (△6.4%)	43,500 (△7.0%)	28,700 (20.8%)	263.94
増減額 (B-A)	1,400	200	600	400	—
増減率	1.0%	0.5%	1.4%	1.4%	—
前年同期実績	136,556	43,471	46,752	23,766	216.07

(2)修正の理由

昨年12月11日付で2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」および癌化学療法に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」を新発売し、今期はこの新製品2品の売上を合計で20億円程度見込んでおります。当該2製品の売上は、前回発表の通期業績予想に織り込んでおりませんでしたので、今回新たに加えることに致します。

一方で、後発品の普及・浸透に伴う影響が今後さらに拡大する可能性や、本年4月の薬価改定を見据えた買い控えの影響が想定をやや上回ることも懸念されます。

以上のことを踏まえ、前回発表の通期業績予想を修正しております。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前当期純利益(累計期間)に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,387	14,102
受取手形及び売掛金	41,129	39,480
有価証券	98,229	102,908
商品及び製品	9,345	5,439
仕掛品	1,172	1,194
原材料及び貯蔵品	3,467	3,424
その他	17,998	14,016
貸倒引当金	△12	△9
流動資産合計	186,718	180,556
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	64,546	63,748
減価償却累計額	△40,685	△39,413
建物及び構築物(純額)	23,861	24,334
機械装置及び運搬具	15,311	14,612
減価償却累計額	△12,994	△12,751
機械装置及び運搬具(純額)	2,317	1,861
土地	22,539	22,539
建設仮勘定	845	745
その他	10,362	10,183
減価償却累計額	△9,297	△9,124
その他(純額)	1,065	1,059
有形固定資産合計	50,628	50,540
無形固定資産		
その他	1,004	1,032
無形固定資産合計	1,004	1,032
投資その他の資産		
投資有価証券	180,856	178,333
その他	8,872	10,818
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	189,727	189,150
固定資産合計	241,359	240,723
資産合計	428,078	421,280

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,565	3,423
短期借入金	1	1
未払法人税等	3,740	9,130
引当金	3,913	5,110
その他	11,932	7,794
流動負債合計	24,152	25,459
固定負債		
長期借入金	14	15
退職給付引当金	115	2,157
その他の引当金	86	82
その他	3,062	3,523
固定負債合計	3,278	5,779
負債合計	27,431	31,239
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,358	17,358
資本剰余金	17,079	17,079
利益剰余金	427,585	422,565
自己株式	△63,435	△63,425
株主資本合計	398,587	393,578
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,579	2,170
土地再評価差額金	△8,922	△8,922
為替換算調整勘定	△186	△203
評価・換算差額等合計	△1,529	△6,956
少数株主持分	3,588	3,419
純資産合計	400,646	390,041
負債純資産合計	428,078	421,280

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	104,254	106,325
売上原価	16,121	16,554
売上総利益	88,132	89,770
販売費及び一般管理費		
研究開発費	27,584	28,599
その他	25,398	26,629
販売費及び一般管理費合計	52,982	55,229
営業利益	35,150	34,541
営業外収益		
受取利息	1,284	1,116
受取配当金	1,618	1,464
その他	276	330
営業外収益合計	3,178	2,910
営業外費用		
支払利息	0	0
寄付金	168	222
その他	221	43
営業外費用合計	390	266
経常利益	37,938	37,185
特別利益		
過年度研究開発費戻入益	—	346
投資有価証券売却益	1,326	—
特別利益合計	1,326	346
特別損失		
投資有価証券評価損	3,969	51
特別損失合計	3,969	51
税金等調整前四半期純利益	35,295	37,480
法人税等	14,241	12,721
少数株主利益	201	165
四半期純利益	20,853	24,592

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3 四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3 四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	35,295	37,480
減価償却費	2,222	2,189
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	3
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	2,717	△2,042
退職給付信託の設定額	—	5,000
受取利息及び受取配当金	△2,902	△2,580
支払利息	0	0
投資有価証券売却損益 (△は益)	△1,326	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	3,969	51
売上債権の増減額 (△は増加)	△5,256	△1,649
たな卸資産の増減額 (△は増加)	272	△3,926
仕入債務の増減額 (△は減少)	△87	1,356
その他	△1,342	△2,660
小計	33,561	33,221
利息及び配当金の受取額	3,053	2,798
利息の支払額	△0	△0
退職給付信託の設定による支払額	—	△5,000
法人税等の支払額	△20,872	△18,077
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,741	12,940
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△70,119	△29,030
有価証券の売却及び償還による収入	122,608	73,970
有形固定資産の取得による支出	△1,177	△1,969
投資有価証券の取得による支出	△21,488	△18,517
投資有価証券の売却及び償還による収入	2,200	7
その他	△306	△435
投資活動によるキャッシュ・フロー	31,716	24,023
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△0	△0
自己株式の取得による支出	△26,556	△9
配当金の支払額	△21,842	△18,990
少数株主への配当金の支払額	△5	△4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△48,404	△19,005
現金及び現金同等物に係る換算差額	△77	16
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,024	17,975
現金及び現金同等物の期首残高	47,433	53,460
現金及び現金同等物の四半期末残高	46,408	71,436

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

セグメントの区分が「医薬品事業」単一であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

セグメントの区分が「医薬品事業」単一であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

全セグメントの売上高の合計に占める「本邦」の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

全セグメントの売上高の合計に占める「本邦」の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	欧州	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	413	1,833	128	2,375
II 連結売上高(百万円)				104,254
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	0.4	1.8	0.1	2.3

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 欧州……イタリア、オランダ、ドイツ等

(2) アジア……韓国、台湾

(3) その他の地域……メキシコ、アメリカ等

3 海外売上高は、当社の輸出高(特許権等使用料収入を含む)であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	欧州	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	352	2,032	92	2,477
II 連結売上高(百万円)				106,325
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	0.3	1.9	0.1	2.3

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) 欧州……イタリア、ドイツ、オランダ等

(2) アジア……韓国、台湾

(3) その他の地域……メキシコ等

3 海外売上高は、当社の輸出高(特許権等使用料収入を含む)であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考」

主な製品の売上高

(単位：億円)

	20年度		21年度		
	第3四半期 累計 (実績)	通期 (実績)	第3四半期 累計 (実績)	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
オパルモン	299	381	325	+25	8.6%
オノン	170	244	173	+3	1.9%
キネダック	126	158	119	▲7	▲6.2%
フオイパン	97	121	94	▲2	▲3.0%
オノンドライシロップ	68	89	64	▲4	▲6.0%
エラスポール	39	50	38	▲1	▲3.0%
ステーブラ	14	22	30	+16	111.4%
オノアクト	22	27	23	+1	5.4%
リカルボン	—	—	4	+4	—

* 上記製品別の売上高は、経理ベースで記載しております。

* 昨年12月11日付で新発売したグラクティブ錠、イメンドカプセルの12月単月の売上高は、それぞれ11億円強、1億円弱となっています。

主な製品の年度別売上高（予想）

(単位：億円)

	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (予想)
オパルモン	373	381	1桁台後半の伸び
オノン	271	244	5%程度の減少
キネダック	174	158	微減
フオイパン	134	121	5%程度の減少
オノンドライシロップ	110	89	1桁台後半の減少
エラスポール	54	50	5%程度の伸び
オノアクト	19	27	20%台半ばの伸び
ステーブラ	5	22	ほぼ倍増
リカルボン	—	—	10～15億円

* 上記製品別の売上高は、経理ベースで記載しております。

平成22年2月4日現在

開発品の進捗状況

1. 国内開発品状況

<申請中開発品>

商品名/商品名候補/ 開発コード	区分	予定効能/薬理作用	剤型	
ステーブラOD錠 ^{※1} (ONO-80250D) /KRP-1970D	剤型追加	過活動膀胱/ムスカリン受容体拮抗作用	錠	共同 (杏林製薬)

※1：過活動膀胱治療剤ステーブラOD錠は厚生労働省に承認申請しました。
(平成22年1月7日付プレスリリース)

<臨床試験中開発品>

商品名/商品名候補/ 開発コード	区分	予定効能/薬理作用	フェーズ	剤型	
リバスタッチ (ONO-2540) /ENA713D	新有効成分	アルツハイマー型認知症 /コリンエステラーゼ阻害作用	Ⅲ	経皮 吸収剤	共同 (ノバルティスフ ァーマ)
ONO-7847 /MK-0517	新有効成分	癌化学療法に伴う悪心・嘔吐 /ニューロキニン1受容体拮抗作用	Ⅲ	注射	導入 (メルク社)
グラクティブ錠 (ONO-5435) /MK-0431	効能追加	2型糖尿病 (α-グルコシダーゼ阻害 剤との併用療法) /DPP-IV阻害 作用 2型糖尿病 (インスリン製剤との併 用療法) /DPP-IV阻害作用	Ⅲ	錠	共同 (万有製薬)
ONO-5920 /YM529	用法・用量変更 (月1回製剤)	骨粗鬆症/骨吸収抑制作用 (ビスホ スフォネート系製剤)	Ⅲ	錠	共同 (アステラス製薬)
注射用オノアクト	効能追加	マルチスライスCTによる冠動脈造 影能の改善/β ₁ 遮断作用(短時間作 用型)	Ⅲ	注射	自社
イメンドカプセル (ONO-7436) /MK-0869	小児での 効能追加	癌化学療法に伴う悪心・嘔吐 /ニューロキニン1受容体拮抗作用	Ⅲ	カプセル	導入 (メルク社)
注射用エラスポール	効能追加	市中肺炎に伴う急性呼吸不全 /好中球エラスターゼ阻害作用	Ⅱ	注射	自社
ONO-4641 ^{※2}	新有効成分	多発性硬化症 /S1P受容体作動作用	Ⅱ	錠	自社
ONO-7643 /RC-1291	新有効成分	癌性悪液質/グレリン様作用	Ⅰ	錠	導入 (ヘルシン社)
ONO-5334	新有効成分	骨粗鬆症/カテプシンK阻害作用	Ⅰ	錠	自社
ONO-8539	新有効成分	過活動膀胱/EP1受容体拮抗作用	Ⅰ	錠	自社
ONO-4538 /MDX-1106	新有効成分	癌/完全ヒト型抗PD-1抗体	Ⅰ	注射	自社
ONO-3849	新有効成分	オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治 性便秘/μオピオイド受容体拮抗作 用	Ⅰ	注射	導入 (プロジェニックス社)
ONO-2745 ^{※3} /CNS 7056	新有効成分	全身麻酔/GABA _A 受容体作動作用 (短時間作用型)	Ⅰ	注射	導入 (パイオン社)

※2：多発性硬化症治療剤ONO-4641はフェーズⅡ試験を開始しました (日米欧三極での国際共同治験)。

※3：全身麻酔剤ONO-2745はフェーズⅠ試験を開始しました。

2. 国外開発品状況
 <臨床試験中開発品>

商品名/商品名候補 /開発コード	区分	予定効能/薬理作用	フェーズ	剤型	
ONO-5334	新有効成分	骨粗鬆症/カテプシンK阻害作用	II	錠	自社
ONO-8539	新有効成分	過活動膀胱/E P 1 受容体拮抗作用	II	錠	自社
ONO-4641※4	新有効成分	多発性硬化症 /S 1 P 受容体作動作用	II	錠	自社
ONO-4538 /MDX-1106	新有効成分	癌/完全ヒト型抗PD-1抗体	I	注射	共同 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社)
ONO-4538 /MDX-1106	新有効成分	C型肝炎 /完全ヒト型抗PD-1抗体	I	注射	共同 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社)
ONO-7746	新有効成分	血小板減少症 /トロンボポエチン受容体作動作用	I	カプセル	導入 (日産化学)

※4：多発性硬化症治療剤ONO-4641はフェーズII試験を開始しました（日米欧三極での国際共同治験）。